



資料1-2

教育分野深化型AIによる 教育評価の支援と教師の指導力向上

2026年4月30日発表資料

OECD 教育スキル局

プロジェクトマネージャ 大久保智哉

- OECD教育研究革新センター(CERI)では、教育分野深化型AIのモデル構築をおこない、概念実証(PoC)を実施している。
- 汎用型生成AIを深化させたAIは教育評価データの詳細分析を基にして、教務支援のための様々な材料の提供を通じて教師の指導力向上に直接的に貢献するものである。
- 教育分野深化型AIは各国の文脈に合わせて構築することが可能。
そのために、各国の評価フレームワーク・カリキュラム・教育評価データなど、各国の知見を適切に反映させるための協働が必要となる。
- 概念実証では有用性を確認するとともに、教員のAI出力との向き合い方の重要性が示唆された。

プロジェクト概要：教育分野深化型AIによる教育評価から教員支援へ

評価目的：

生徒・学校・母集団レベルで
従来よりも詳細な診断評価を生成



アウトプット

教員支援目的：

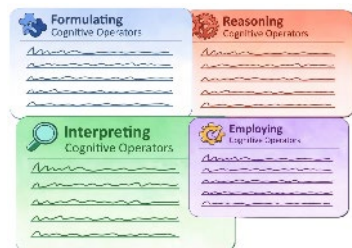
診断評価を、個別最適な学び、
宿題作成、授業計画支援に活用で
きるように変換



科学的プロセスと専門家の監督により生成AIを深化



テスト項目



評価
フレームワーク

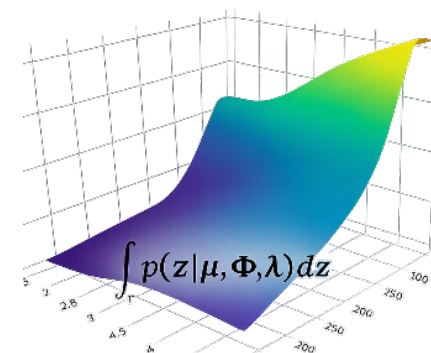
インプット



テスト項目への回答



専門家の判断



データモデリング

汎用型生成AIから教育分野深化型AIへ

- 汎用型生成AIは評価方針と基準を持たない。回答を入力すればそれらしい評価は返すものの、評価の目的や対象に即した適切な評価を返すように繰り返し深化させたAIの利用を。



汎用型生成AI



分野深化型AI

評価フレームワークの操作的定義や教育評価データの活用を通じて安全なAIツールへ

教員支援の必要性：教育分野深化型AIができること

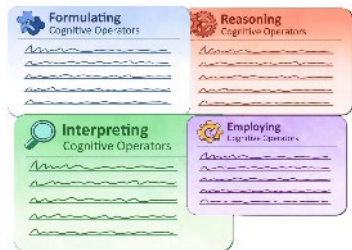
- 2024年より三重県松阪市と宮城県白石市と概念実証を実施。2025年より山形県上山市も参加。



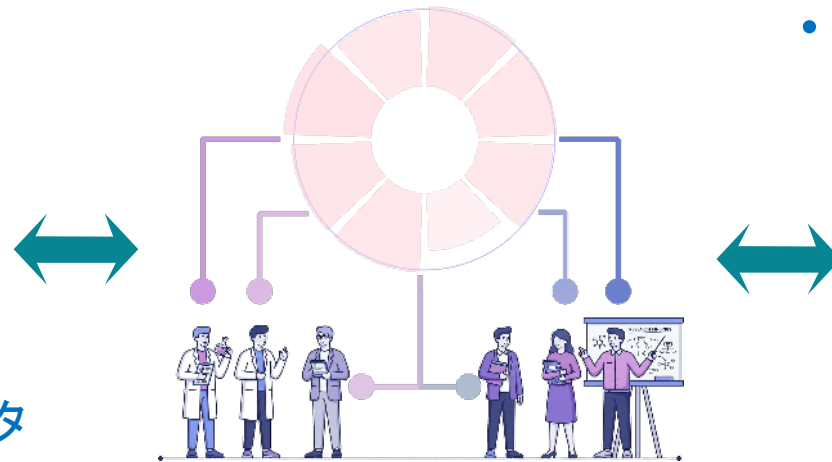
利用済みのテスト項目



テスト項目への回答データ



日本のカリキュラムや
評価方針などの情報



日本の深化型AIによる分析

- 形成的評価結果の提供
- 評価情報に基づく類似問題や宿題の生成
- AI出力検討会と教員知見の蓄積



- 専門家による妥当性確認と継続的改善を経た深化型AIは、回答の解釈にとどまらず、指導を支える教材を生成し、評価エビデンスの実践活用を支援する。

評価エビデンスから教員支援へ

学習ニーズを診断する

- 1 生徒の解答をカリキュラム目標に対応づけ、強み、つまずき、想定される誤概念を明らかにする。

教材を生成する

- 2 結果を次の指導につながる示唆、練習問題、宿題、授業案へと変換する。

指導力の向上に資する

- 3 研修や、よりの確な指導を支援し、学校が評価エビデンスをより効果的に活用できるようにする。

政策的含意：
深化型AIは評価エビデンスを教員支援へとつなげ、授業改善と指導能力の向上を促進する。



ご清聴ありがとうございました

三重県松阪市教育委員会，宮城県白石市教育委員会，山形県上山市教育委員会
の皆様の取り組みに感謝します

プロジェクトに関する問い合わせ先：
tomoya.okubo@oecd.org